

■堀田正睦 老中、佐倉藩主。幕府に先駆けて天保改革、開明派として二度老中になるも、井伊直弼に罷免された。

ほったまさよし
・・・・・・1810＝ 江戸の佐倉藩邸で、_7代藩主堀田正時の次男に生まれる。
ゴロツン拿捕 1811＝ 1歳：父正時が死去したため、叔父正愛が後を襲って8代藩主となる。

水野忠成老中1818＝ 8歳：
群書類従完結1819＝ 9歳：

シボム鳴滝塾1824＝14歳：正愛が死去したため、
異国船打払令1825＝15歳：_家督を相続して、9代藩主となる。

シボム事件・1828＝18歳：
シボム追放・1829＝19歳：_幕政の面では、奏者番からスタート、
藩財政の逼迫・風紀の退廃・農村の荒廃などから、年寄役渡辺弥一兵衛らを起用して、

天保大飢饉始1833＝23歳：_藩政改革に着手。
高島砲術・・・1834＝24歳：幕府で自社奉行となる。
滑稽+人情本 1835＝25歳：さまざまな学問や武芸を学べる成徳書院を江戸に開設する一方、領内に陰徳講を組織して子育てを奨励、
・・・・・・1836＝26歳：勸農掛を設置し、篤農家や豪農らを農村復興に当たらせる。佐倉にも成徳書院を開設。
大塩平八郎乱1837＝27歳：_幕府の大坂城代、西丸老中を経て、

_藩政改革が水野忠邦に評価されて、

天保改革始・1841＝31歳：*老中にまで進んだが、
天保改革弾圧1842＝32歳：学校と病院を兼ねたような医学局を設置、
順天堂始・・・1843＝33歳：江原刑場で死刑人の解剖を許可するなど、医学を重視。*水野の改革失敗で、老中を罷免され帰藩し、藩政に専念し始めると、佐藤泰然を招いて蘭方医学を採用。藩医にオランダ医学を学ばせ、また西洋の兵制を採用し、世間からは“蘭癖”と呼ばれた。

阿部正弘首座1845＝35歳：
孝明天皇・・・1846＝36歳：

北斎没・・・1849＝39歳：領内で種痘を実施(佐賀藩に次いで2番目)。

ペリー来航・1853＝43歳：_ペリー来航の際して、外国の通商要求を拒絶することは不可能だから、開港すべきだという意見を提出。

安政大地震・1855＝45歳：*阿部正弘に推されて再び老中に登用され、外国事務総裁を兼ねて老中首座となった。
攘夷派が多く、また将軍跡継ぎ問題を抱える中で、
蕃書調所・・・1857＝47歳：_通商許可を条文に含んだ日蘭追加条約、日露追加条約を結んだ。ハリスと日米修好通商条約案を議了し、
五ヶ国条約・1858＝48歳：*条約調印の勅許を得るため、みずから上京したが目的を達しえず、江戸へ帰る。この間、将軍継嗣問題で一橋慶喜を推していた松平慶永としばしば交際したため、大老井伊直弼に老中を罷免された。

安政の大獄・1859＝49歳：_隠居して家督を嫡子正倫に譲ったが、正倫が幼少のため後見するとともに、脚気により帰藩を許され、
桜田門外変・1860＝50歳：_再び藩政改革に着手したものの、
生麦事件・・・1862＝52歳：_さらに、在任中に失政があったとの理由で幕府から蟄居を命ぜられ、

禁門の変・・・1864＝54歳：佐倉城内で_没した。